

菅野 幸雄

NPO 法人環境ワーキンググループ伊達 理事長

昭和9年（1934）、二本松市生まれ。
1957年に福島大学を卒業後、公立小学校・中学校に勤務。1961年より
県立高校の理科教員として保原、福島女子高校で主に化学生物を担当。
1995年に定年退職後、福島東、福島高校などで講師として勤務。

「シーベルト、ベクレルって、なんのことかさっぱり分かん」。
原発事故による放射性物質の降下で汚染が広がった時に、近所の人が
口々に言いました。高校の教員をしていた頃、放射線医学総合研究所で長期研修を
受けていて放射線の知識がありましたので、3月21日に「すぐさま影響が
あるわけではないから大丈夫」と近所の人たちを集めて話しました。
でも実際に測るための計測器がなかなか手に入らず、なんとか教員時代の
元同僚から精度の高い測定器を土曜の午後から月曜の朝限定で借りて、
仲間たちと寝る間も惜しんで市内各所の放射線量を計測しました。
その結果、部分的に高線量の地点があるが、多くの地点では心配ないことが
分かりました。7月には伊達市から定点計測の依頼を受け、10年目の現在も
続けています。放射性セシウムには半減期があり、放射能は時間が経つほどに
弱まっていくので、私たちは理論値と実測値の比較も続けてきました。
これができるのは、ごく早い段階から計測をしていたからです。
むやみに怖がるのではなく、科学的な視点で根拠をもって対処することが大切。
みんなで学んで、助け合って、よいふるさとを残すために、
自分にできることを役立てたいと思っています。



放射線量の減少は明らかで「除染しても
また戻ってしまうのでは」という不安を払拭した